

北海道合鴨水稲会

水かき通信

【今号の内容】

「北海道合鴨水稲会 10周年を祝う会」報告（清水池義治）	1
北海道合鴨水稲会発足 10周年記念会に出席して（難波利光）	5
2004年度北海道合鴨水稲会総会報告（庄子太郎）	6
「別冊現代農業」2005年3月号・書評（庄子太郎）	9
編集後記	10

「北海道合鴨水稲会 10周年を祝う会」を盛大に開催！！

清水池 義治（事務局）

2月27日に「北海道合鴨水稲会 10周年を祝う会」が北海道大学農学部大講堂にて開催されました。会員、関係団体、学生などおよそ60名の参加のもと、北海道合鴨水稲会の10年間にわたる活動の意義を確認してさらなる前進を参加者一同で誓い合い、大いに盛り上がりました。以下ではその報告をおこないたいと思います。



最後に全員で記念写真を撮りました。これからもよろしく！

乾杯!

午後5時の開会を前に、北海道中から参加者が続々と集まってきます。“やあやあ元気かい”という言葉がとんで、はやくも会話に花が咲きます。なんだかんだと話していると、視界に懐かしいあの人の姿が。ひととき大きな声があがり、さながら学校の同窓会のように。いよいよ5時が迫ると、別個開催の総会に出席していた会員の方々がどどっと受付に殺到。受付には黒山の人だかり。長蛇の列です。

いざ会場に踏み込むと、両壁面は紅白幕で彩られ正面には「北海道合鴨水稲会10周年を祝う会」の大文字。整然と並べられたテーブル。そして純白のテーブルクロスが目染みます。まさに10年という節目を祝うにふさわしい会場となりました。



いよいよ宴の始まりです。

あまり慣れていないテーブルクロスの感覚にちょっと緊張しながら、開会のその時を待っていると、長身のすてきな男性が私たちの前に現れました。“名司会”の評判名高い高嶋浩一さん（農業・北広島市）の登場です。そのダンディーな声で開会が宣言され、いよいよ祝う会のスタートです。まず主催者挨拶で、われらが北海道合鴨水稲会代表世話人の折坂義

一さん（農業・浦臼町）がマイクをとります。普段は拝見できないスーツ姿で、当会が10年という節目の年を迎えられたのは多くの方々のおかげであると感謝の意を述べました。それでは乾杯です。乾杯の音頭取りは高橋淳さん（北海道環境生活部）。「カンパ〜イ！」

豪華な合鴨料理に舌鼓

乾杯からほどなくして、続々と料理が会場に運び込まれてきます（献立一覧を参照）。今回の料理は北海道合鴨水稲会と縁の深い、出張料理人・岸洋光さんをお願いいたしました。岸さんは「地産地消」を基本に現場で料理を作り、皆さんに喜んでいただくことをモットーにされています。合鴨肉・ガラにつきましては、当会会員が圃場から引き上げたものを肥育し、食肉加工していますアイマート様から調達していただきました。米と玉葱、人参については折坂農場からの提供です。また、その他のものにつきましては、岸さんが滝川市などの生産者から仕入れた食材を調理していただきました。どれも大変美味しかったです。私は「鯛の姿揚げ 合鴨だし きのこあんかけ」が一番気に入りました。料理の豪華さにあちこちから感嘆の声があがる中、参加者一同は次々と平らげていったのでした。

がつがつと食らう某氏。



献立一覧

有頭海老と冬野菜 有機玉子のサラダ仕立て
スモークニシンとオニオンの和風サラダ
ズワイガニのちらし寿司
鯛の姿揚げ 合鴨だし きのこあんかけ
合鴨、ゴボウと百合根のグラタン
鶏と菜花のソテー バターガーリック&オイスターソース
ブランマンジェ メープルシロップ風味

10年のあゆみを振り返る

酒と料理がすすむ中、突如会場の照明がおちて真っ暗に。なにが始まるかと思いきや、正面ステージの画面に「北海道合鴨水稲会10年のあゆみ」というタイトルが映し出されました。そう、この日のために事務局が力を入れて完成させたスライドショーの始まりです。弁士は、長年(?)事務局員として当会運営にあたってきた宮入隆さん（農学博士）。当会設立当時の圃場見学会の写真が映し出されると、参加者の間で自然と声があがります。「老けたな〜」というツッコミももちろん入ります。いい感じにできあがってきた弁士におしゃべりを独占させることなく、参加者が代わる代わるマイクを握って、当時の様子を語ってゆきます。



佐竹国広さん。若き力がほとぼしる。

やがて画面は、2001年に開催された「第11回全国合鴨フォーラム北海道大会」に移りました。初めて北海道で開催された「全国合鴨フォーラム」。私は当時の様子を先輩の話や写真などでしか知ることができませんが、大変な苦勞があつて実現された大会であつたらうと思います。当時を語る方々の話しぶりは一見するとユーモラスですが、大会へ向けての努力と大会を実現したことに対する誇りと自信を言葉の節々から感じることができました。数十枚の画像からなるスライドショーを、今回の祝う会に参加できなかった方々にも観ていただきたいと思うのですが、紙幅の都合上それは不可能ですので「10周年記念誌」の写真館をぜひともご覧ください。

大団円、そして・・・

スライドショーが終わったところで、式次第にはない隠しイベントの開始です。当会の初代表世話人として設立当初から当会をリードされてきた浅野晃彦さん（農業・旭川市）と、10年間当会の顧問を務められてきた三島徳三先生（北大教授）に、プレゼントの贈呈です。当会を語る上で欠かすことのできない浅野さん

と三島先生に贈られるものとはいったい何か？ その気になる中身は、北海道合鴨水稲会のロゴマークが背中に描かれた特製のつなぎでした。代表して折坂さんが二人につなぎを手渡すと、参加者から二人の功績を称えて惜しめない拍手が送られました。二人は早速つなぎを着用して、その勇姿をみなさんに披露してくださいました。



手を取り合って歓喜する折坂さん、浅野さん、三島先生。

いよいよ会場が盛り上がりしっちゃかめっちゃかになる中で、岸さんはじめ出張料理人メンバーが登場。料理の説明とともに、なんと種々の楽器を駆使しての生演奏が始まりました。演目は南米はアンデス山脈にこだまする「コンドルは飛んでいく」。参加者は手拍子で応え、踊り出す人まで出現しました。アンコールが連呼され、飲みや歌えやの大騒ぎ。われもわれもとステージに上がってマイクを握り、自分の思いを熱く語りました。

会場のボルテージが最高潮に達したとき、さだまさしの「夢の吹く頃」のメロディーによって三島先生が再度ステージに登壇。自らの合鴨水稲会への思い、人と人、人と自然をつなぐ合鴨水稲会の有り様を熱く述べられ、最後に「合鴨よ！ さらに飛べ！」と訴えて締めくくられました。「乾杯！」参加者一同で唱和し



生演奏に会場はさらに沸く。

て、合鴨水稲会のさらなる飛躍と前進を誓い合い、夜の農学部でその雄叫びをあげたのであります。宴はそれで終わろうはずもなく、参加者の一部は夜の札幌の街に消えていったのでした……。

最後になりますが、今回の「10周年を祝う会」を企画するにあたって多大なご努力をいただいた世話人をはじめとする会員の皆様、そして当日出席して下さった関係者の皆様、ありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。微力ではありますが、私はこれからもがんばります。みなさんともにもがんばってゆきましょう。



高嶋さん、名司会でした。

北海道合鴨水稲会発足 10 周年記念会に出席して

難波利光 (北大農学部)

2004年2月27日、北海道大学農学部大講堂にて開催された、北海道合鴨水稲会発足 10 周年記念を祝う宴席に出席しました。この催しでは、合鴨を使った料理数品を味わうと同時に、所属する農家の方をはじめ同会に何らかの形で携わっている多くの方々とコミュニケーションをとることができ、自分にとって非常に有意義な時間を過ごせました。

しかしながら、このように 10 周年記念会の恩恵をしかと味わった訳なのですが、自分がそのような恩恵を受ける対価として、今まで北海道合鴨水稲会になにがしかの関係で携わっていたのか、というところでもないのです。私は、同会に所属していっしょに三島教授のゼミ生で、そのゼミの大学院生からお誘い頂き、記念会に出席することができた訳です。したがって、私は北海道合鴨水稲会に関する知識はさることながら、合鴨農法についてさえもほとんど何も知らないような状態で記念会に出席していました。自分にとって、全表面識がない人たちが構成されている宴会に参加したわけですが、新参者が飛び入りで出席しても、会場は和気あいあいとリラックスして過ごせる雰囲気であったことを記しておきます。

記念会では 10 年の歩みを、写真や同会を取り上げた新聞記事などで構成されたスライドショーで紹介していましたが、詳しい内容はよくわかりませんでした。写真に写っている会員の皆様の楽しそうな表情が印象的でした。

このように、何も知らない人間が急に宴会に参加しても楽しめる懐の深さ、合鴨料理の美味しさ、会員の皆様が生き生きとし

た表情で水稲会に所属している明るさを、記念会に参加してみて感じることができました。

合鴨農法というのは環境に優しく低投入で持続可能な農業という利点がある反面、合鴨肉の販路や慣行栽培に比べ手間が大きいことなど、課題もたくさん残っているようです。北海道合鴨水稲会の 10 年の歩みの中でも、多くの難題に直面してきたのだらうと思いますし、これからも多くの問題に直面していくことと思います。しかし、まぎれもない事実は、問題があろうとも北海道合鴨水稲会が現実に 10 年間存続してきたということです。

この事実と、自分が記念会で感じた合鴨肉の美味しさ、会員の皆様の活力、環境への優しさなどを考慮すると、これからの北海道合鴨水稲会の未来は明るいものであるはずだ、と思っています。

記念会に参加できたことを契機に、北海道合鴨水稲会に対して微力ながらも役に立つことがあるなら、これからも携わりたいと思います。



2004 年度総会議事録

庄子 太郎 (事務局)

日時：2005 年 2 月 27 日 (日) 17 時 20 分～

場所：北海道大学農学部 農業経済学科会議室

10 周年記念パーティーに先立って、2004 年度総会が行われました。代表世話人の折坂氏の開会の言葉と挨拶の後に議長の選出を行いました。春木氏が議長として選出され、以降の議事進行を勤めました。

2004 年度事業報告及び決算報告

事務局より、別紙 1 と 2 のとおり 2004 年度の実業報告と決算報告が行われました。

アイマートとの合鴨肉取引契約の件については大塚氏より説明があり、オブザーバーとして総会に参加していた(株)アイマートの岩井雅海社長が紹介されました。岩井社長からは、本年度は本会会員より合鴨を試験的に 280 羽受け入れており、来年度には 300 羽程度受け入れる予定で協議を進めている最中であるという発言がなされました。

監査報告

監査の高嶋氏によって決算報告に間違いがないことが報告され、参加者の拍手によって承認されました。

2005 年度事業計画及び予算案

事務局より、別紙 2 と 3 のとおり 2005 年度の実業計画と予算案が提案されました。事業計画には、例年と同様の総会、圃場見学会、定期通信の発行などに加えて、先延ばしになっていたホームページの立ち上げを 2005 年度中に行う予定であることが盛り込まれていました。参加者からの意見・質問を求めた後、2005 年度事業計画及び予算案は拍手によって承認されました。

また、折坂氏より会費未払いの会員が多いという指摘があり、全会員に対して確実な納入を求めるとともに総会に出席していない会員にも一声かけてほしいとの要望が出されました。

以上で議事はすべて終了し、春木氏は議長を解任されました。折坂氏による閉会の言葉の後、参加者は 10 周年を祝う会の会場へと移動しました。

以上

(別紙 1)

【2004 年度事業報告】

1) 総会及び勉強会の実施

2004 年 2 月 28 日 28 名参加
於 南幌町 JA なんぼろ

2) 圃場見学会の実施

2004 年 7 月 18～19 日
約 30 名参加
於 瀬棚町 諸戸、高橋、横山、
平田、岡崎圃場、ワタミファーム

3) 10 周年記念行事

1. 北大祭出店

2004 年 6 月 4、5、6 日実施
於 北大農学部前

2. 10 周年記念誌の作成

3. 10 周年記念パーティー

2005 年 2 月 27 日
於 北大農学部大講堂

4) 定期通信の発行

“水かき通信”3 回発行
第 16 号 (2004 年 5 月)
第 17 号 (2004 年 8 月)
第 18 号 (2004 年 12 月)

5) 世話人会の開催

第 1 回 2004 年 3 月 31 日
第 2 回 2004 年 7 月 18 日
第 3 回 2004 年 10 月 24 日
第 4 回 2005 年 1 月 12 日

6) その他

アイマート説明会について (大塚より)

(別紙 3)

【2005 年度事業計画】

1) 総会及び勉強会の開催

(2006 年 2 月～3 月実施予定)

道北ブロックが企画・運営

2) 圃場見学会の実施 (2005 年 7～8 月実施予定)

道北ブロックが企画・運営

3) 全国大会への派遣参加

4) 定期通信の発行

年 2 回発行予定 (19 号、20 号)

19 号 (4 月中—10 周年記念行事等)、

20 号 (8 月中—圃場見学会等)

5) 世話人会の開催

年 2 回 (圃場見学会前、総会前)

7) その他

北海道合鴨水稲会の HP (ホームページ) 作成

(別紙2)

2004年度北海道合鴨水稲会決算報告

2004年度の会計年度は2004年1月1日～2004年12月31日とする

収 入			支 出		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
前年度繰越	172,540		世話人会交通費	56,000	3回分
04年度会費(一般)	81,000	27人×3000円	園場見学会案内発送費	4,320	
04年度会費(学生)	5,000	5人×1,000円	園場見学会補助費	10,000	
			「水かき通信」発送費	15,280	3回分
			総会案内発送費	4,400	
			総会補助費	10,000	
			雑費	5,654	事務用品等
			事務局手当	30,000	
			北大祭出店補助	28,943	10周年記念行事 イベント出展費から
			払込手数料 (次年度繰越)	700	10名×70円
				93,243	
合 計	258,540		合 計	258,540	

以上、2004年度決算を報告いたします。

2005年2月27日 事務局 田中 重貴

決算報告並びに関係書類を詳細に監査した結果、内容が適切であることを認めます。

2005年2月27日 監査 高嶋浩一

2005年度北海道合鴨水稲会予算案

2005年度の会計年度は2005年1月1日～2005年12月31日とする

収 入			支 出		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
一般会費収入	129,000	3000円×43人	世話人会交通費	50,000	3回分
学生会費収入	3,000	1,000円×3人	園場見学会案内発送費	6,000	
			「水かき通信」発送費	12,000	2回分
			その他文書通信費	2,000	
			会費払込手数料	2,100	30名×70円
			総会・園場見学会補助費	20,000	
			雑費	5,000	
			事務局手当て	30,000	
			10周年記念行事特別予算	100,000	記念誌、パーティー等
実収入 計	132,000		実支出 計	227,100	
前年度繰越	99,243		予備費	4,143	
合 計	231,243		合 計	231,243	

◆本の紹介◆

『イネの有機栽培・緑肥・草、水、生きもの、米ぬか・・・田んぼとことん活用』

(別冊現代農業 2005年3月号 農村漁村文化協会 発行 定価1200円)

東京の都心部に位置する大手町野村ビル。その地下二階で、トマトやレタスなどの野菜が「生産」されているのだそうです。太陽の光の代わりに発光ダイオード(LED)などの人工照明を使い、室温はコンピュータで制御。水耕栽培が中心なので土は見当たらず、農業も必要ないとか。これは人材派遣会社大手のパソナが運営している「植物工場」で、農業の研修用と、都会の人々に農業への理解と関心を深めてもらうのが目的なのだそうです。今年の2月に視察に訪れた小泉首相も、「これは農業革命だ。雇用にもつながる。すごい可能性を秘めている」とコメントしました。

硬いコンクリートの壁に囲まれ、青白い人口の光をうけて育つ野菜(これはあくまでイメージです。本当にこの通りかはわかりません)。風にふかれることもなく、雨にうたれることもない。暑さ寒さとも無関係。完全制御ですから、害虫や病気に悩まされることもないでしょう。「効率的」で「理想的」な生産方法なのかもしれません。

しかし僕は「なんだか変だ」と思うのです。そこでできるトマトやレタスは、野菜というよりは機械みたいに思えるのです。このような農業生産方法はなんとなく寂しくて悲しい感じがするのです。これはいったい何故でしょうか。

本書を読んでその理由に気づきました。植物工場では、人間と作物以外の生き物が排除されているのです。それだからなんだか変で、なんだか寂しい感じがしたのです。著名な経済学者である玉野井芳郎は、農業を「生命系の産業」と呼び、「非生命系の産業」である工業と対置させました。植物工場は、その名の示すとおり「非生命系の産業」である工業であり、農業ではなかったのです。

それにくらべて、本書で紹介されている生産方法には多くの生き物が登場します。レンゲ、クローバー、ハーブ、白鳥、アイガモ、コイ、カメ、などなど・・・。圃場には生命があふれています。まさに農業は「生命系の産業」でありました。

本書は5部構成で、各部のタイトルは以下のとおりです。

Part 1 緑肥・草生栽培 植物が土を肥沃にする 草で草をおさえる

Part 2 有機物を活かす 堆肥、米ぬか、稲わら、くず大豆・・・を田んぼで発酵させる

Part 3 冬季湛水 冬の田んぼに水を入れると生き物が集まる 草が減る

Part 4 生きものたちの豊かな田んぼ 合鴨水稲同時作、鯉放流稲作

Part 5 有機の稲づくり知恵集 種子、育苗、施肥、防除

Part 4では、ごぞんじ古野隆雄さんが合鴨水稲同時作について解説しており、Part 5では今橋道夫さんが「香りのあぜ道」について書いています。その他にも全国各地の楽しい事例が満載です。

(事務局：庄子太郎)

【編集後記】

10周年を祝う会をはじめ記念行事を無事終えることができほっとしております。あらたな年度を迎えまして事務局体制も変わりました。毎年雪解けの季節を迎え春の訪れを感じるごとに、流れ流れてゆく年月の無常に心をはせるのであります。何か干からびたインテリのようなことを言ってしまいました。何かとご迷惑をおかけすると思いますが、みなさんこれからもよろしくお願いいたします。

(事務局 清水池)

空合い眺め 飲むコーヒー 我が祖父母の顔が浮かぶ

俳名 井上淳生

私の父方の祖父母は鳥取の山間部で農業を営んでいます。農繁期に手伝いに行ったとき、休憩中、一緒に飲んだ缶コーヒーを思い出して詠みました。

農業に携わる皆さんに感謝と敬意を抱きながら。

(事務局 井上)

春だ！待ちわびた春が来た！先週末には、大学構内の芝生でジンギスカンをやっているグループを今期はじめて目撃しました。これから天気の良い日にはキャンパスに肉を焼く煙が漂い、酔っ払った大学生が徘徊する光景が見られることでしょうか。寒さにふるえることなく戸外でビールを飲めるというのはなんと喜ばしいことでしょうか。

(事務局 庄子)

北海道合鴨水稲会 水かき通信 第19号

2005年 4月26日 発行

(連絡先) 北海道合鴨水稲会事務局

〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目

北海道大学大学院農学研究科

農業経済学講座内

清水池義治・井上淳生・庄子太郎・田中重貴

TEL: 011-706-4941

FAX: 011-706-4179

E-Mail: smzike@agecon.agr.hokudai.ac.jp